2018年東海大学日本語言文化学系国際学術シンポジウム

研究発表者募集要項

一　テーマ：「協働・実践・多元学習―言語と社会文化の交錯」

二　シンポジウムの趣旨

言語行動はまぎれもなく社会的な営為であり、人と人との関わりにおいて、もっとも重要な伝達／媒介手段の一つです。しかし言語行為というものが、常に相互に、話者と聞き手の社会・文化的経験をもとになされるものである以上、そこに作用している社会・文化的背景を理解することなく、コミュニケーション活動を行うことはほとんど不可能です。コミュニケーションを、行為者相互の持つ差異性のぶつかり合う過程だと考えれば、言語学習における社会・文化的アプローチは不可欠なものとなるでしょう。とは言え、いったいそれはどのようにして実現可能なのでしょうか。

多元文化社会を生きる台湾の一高等教育機関で言語教育に携わってきた本学科は、いちはやく協働・実践・多元学習などの方法を通してさまざまな可能性を模索し、カリキュラム改革を経ながら多くの試みを重ねてきました。しかし、言語学習と社会・文化との連携が不可欠であることを確認した今、さらなる一歩を踏み出すべく、こうした問題意識を共有し、活発に研究を重ねてきた学外の研究者を招き、新たな視点を獲得するために、本シンポジウムを開催することになりました。

本シンポジウムのプログラム構成は以下の通りです。

(一)　基調講演

(二)　学術研究発表・ラウンドテーブル

(三)　ポスター発表

尚、学術研究発表では、以下三つのセッションの研究発表を募集いたします。

⑴「言語科目の中の社会・文化」

外国語教育では言語における構造上の問題を解決しなければなりませんが、学習者がその言語で人と対話し、あるいはコミュニケーションをする場合、学習者自身の言語と学習言語の持つ社会・文化の考え方や知識などとの関わりを考えることはどうしても避けることができません。如何に学習者に言語の持つ社会・文化的差異に気づかせ、独自の考えや価値判断を持たせるかは、多くの教師の苦心するところです。

本セッションは、

①　教師が言語構造について教える際、如何にして該当言語の社会・文化的思考や知識を導入できるか

②　如何にして学習者に学習言語と自言語の持つ社会・文化的価値観を比較し、考え、議論させるか

③　その他の教学方法など　　について取り上げます。

⑵「日文系における社会・文化科目は何を目指すのか」

多くの日文系では社会・文化について考える内容科目が設定されていますが、これら内容科目は言語学習科目と比して副次的な科目と捉えられる傾向も見られます。しかし、人は生涯を通して、多様な社会・文化と関

わりから自己実現・人格形成を行っていくのであり，社会・文化について知識を得、考え評価し、行動するという一連の行為は高等教育の教学実践の根幹を成すといっても過言ではありません。
本セッションでは、
① 複雑・多様な社会・文化の事象から何を選びどう提示し何を考えるのか
② 伝統・権威に根ざした固定的・受動的な文化理解や，国民国家・世代・性といった社会・文化の既存の分類・区別のあり方といかに向き合うか
③ 教師・学生の専門性や研究関心を内容科目にいかに反映させるか
④ 社会・文化に関わる実践者たちとの交流・協働をいかに志向するか
といった観点・問題意識から、教学実践の紹介、得られた成果や困難・問題点の共有、課題や提言等を行い、会場全体で幅広く議論できる場にしたいと考えています。

(3) 現実の社会、人々とつながる教育実践
現代は、既成の知識や教科書で問題解決ができるような社会ではありません。社会には目に見えない力関係が存在し地球規模の問題も多く発生しています。そして情報化社会は迅速な利便性をもたらしましたが、バーチャルな世界に親しむ学生は情報の洪水の中からどのような情報にアクセスし、現実の社会と協働をどう体験し、確かな判断力を身につけていくかが課題になっています。今、大学においては多元的な学習と主体的な判断を養成する教育実践が必要とされています。また、教師は教室で知識を与えるだけではなく、学習環境デザイン、他の専門領域・社会で活動をしている人々との協働を通して新たなネットワークを築いていく役割も求められます。
本セッションは、
① 他領域の人々、社会とつながる教育実践で、どのような新たな教育空間が生まれているのか
② こうした実践を通して学生たちはどのような体験をし、どのような学びを得ているのか
③ 実践の企画にはどのような課題があり、どういう改善が求められるのか
について議論し、今後の新たな可能性を語りあう場にしたいと考えています。

三 主 催：東海大学日本語言文化学系
四 会 場：東海大学茂榜廳
五 日 程：2018年1月20日(土)
六 発表申し込み方法
- ◆ 使用言語：日本語
- ◆ 口頭発表時間：一人30分（口頭発表20分、質疑応答10分）
- ◆ 申込方法：E-mail
  「発表申し込み用紙」（添付資料一）にご記入のうえ、メールで下記のアドレスまでお送りください。japan@thu.edu.tw（メールのタイトル：2018年国際シンポ要旨)。＜こちらからの確認メールが届いたら受付完了です。＞
- ◆ 申込み期限：2017年4月26日（水）必着
- ◆ 要旨の審査結果：2017年5月31日（水） までにメールで通知いたします。
- ◆ 予稿の締め切り：2017年11月30日(木)までに電子ファイル（PDF、WORD）で下記のアドレスまでお送りください。japan@thu.edu.tw（メールのタイトル：2018国際シンポ発表予稿)

七　予稿の書式及び提出方法は、下記をご参照ください。

1. 本文の使用言語：日本語に限る。
2. 論文の長さ：8～12 頁（参考文献・資料・図表などを含む）
3. ページ規格：A４。横書き。１頁につき 30 字×40 行。
4. 余白：上2.5ｃｍ　下2.5ｃｍ　左３ｃｍ　右３ｃｍ
5. 使用フォント：日本語-ＭＳ明朝体、中国語-ＭＳ新細明體、英語- Times New Roman
6. 注記：脚注（ＭＳワードの脚注機能をご使用ください）。
7. 題目やお名前・所属は、以下の順序で書いてください（フォントの大きさは括弧内を参照）。

論文題目（14ポイント）
〈一行空ける〉
姓名（12ポイント）
所属機関と職称（12ポイント）
〈一行空ける〉
本文・参考文献（12ポイント）
（脚注は10ポイント）

八　お断りとお願い

提出いただいた発表資料の全文は会議論文集としてシンポジウム当日に刊行されます。お手数ですが、ご送付の前にご原稿の内容を十分に確認くださいますよう、お願いいたします。

また、本シンポジウム後、論文集の発行はいたしませんが、発表くださった皆様には本学科機関誌『多元文化交流』へのご投稿をお願いする予定です。その際、ご発表の内容をもとに加筆修正したご原稿をいただけましたら幸いです。

【問い合わせ先】

召　集　人：主任　北川修一
電　　話：04-2359-0121 分機 31701～31703（窓口：呂 佩芬 ）
ＦＡＸ　　：04-2359-0258
住　　所：40704 台中市西屯區台灣大道四段 1727 號 東海大學日本語言文化學系
E-Mail　：japan@thu.edu.tw
学 科 Ｈ Ｐ： http://japan.thu.edu.tw/